

かなづかひ教科書

物集高見著
全

T1A1

11

Mo99k



a 1 3 8 0 3 2 1 2 5 5 a

福岡教育大学蔵書

帝國文科大學教授物集高見光著

かなづちの教科書全

東京書肆 十一堂發元

かなづちの教科書

例言

一 此書ハ、余ガ、東京大學ヨリ、東京師範學校等ニテ、自ラ教
 へたる、かなづちの、書取を以テ、此度、華族女學校ニ
 も用ひらるゝを、勧めらるゝを、以テ、ハ、上木サトウ
 一 此書より久、此式を以テ、時々漢音、音便、二種ノ
 かなづちの、大抵、十二時間、乃至、十五時間をもテ、教
 へ得べし。

一 生徒の試験より、余ハ、常々、種々の、漢字を與へテ、傍訓を附
 し、或ハ、假字違ひの、歌文を與へテ、其正誤を附しめし。

かなづちの教科書

例言

一書中、くろゝの鳥、すゝえ條などの如く、一語もて、己の部にも、
るの部にも、出すべき類ハ、最初の部よのみ出して、別々よ
を出さず。

一書中（ ）を、かけるることをハ、古言かゝハ、古言のたゞひ
うと、なりハ、やうなきかのなり。

一書中、あつ章、周き出せるうへよ、さらよ、其下よ、あつと、あつし
邊性を出せるハ、いかにも、無益の、やうなれども、かやうの語
ハ、假字も同様なりといふを、知り、もるよ、も、きつて、めてよ
き、便利ともなれむ、いざし。

明治十八年十二月

かなづかひ教科書

豊後 物集高見 著

とりすべての、ことども、

國語ハ、音をつゞら、ものよ、假字ハ、音を志るして、ゆくめのな
り。されむ、其假字を、正さんとするよ、先づ、其りくの音より、正
さるるづからず。さるよ、本邦人ハ、昔より、其思想を、よよ、漢語
を、ま、國語を、志るすよ、漢字を、かちひ来しり、今ハ、象形文
字の、目よ、みろよ、馴れたるほどハ、記標文字の、耳よ、聞くよ、ま
く、なつて、す、だ、殆と、千餘年を、へたりき。されむ、今、ち、ま

ちよ其馴れよる、漢語をやめ、漢字をすて、其やうくくたり
よる、國語と、假字とのみよえ、するることあつたず。されど、先づ、其
音の、あやまれるもあきて、其假字より、正さんとす、すなり、さて、
其國語の數を、あぞぐ、ば、少なくなるとも、五萬むかりも、あるべから
んよ、其國語の、假字どもを、ひとりづつ、覺ゆるハ、たそを、やすかる
べき、事よも、あらねむ、別よ、覺え、や、すかるべき、一種の、手段を、設
けざるべからず。こゝよ、先輩の、考へ、よる、一種の、法あり。其法、二
つの、紛るべき假字を、取り出で、其一つハ、あぼえ、を、一つハ、推し
量る法なり。抑も、假字の、紛ると、つゝハ、よく相似よる、音ども、の、
二つあるよ、まれり。されど、其二つの、よく似よる、音よ、つき、其

多きと、少なきとを、較べ、まづ、一つの、少なき方を、よく覺え、そ
さて、今、一つの、多き方のハ、あぼえ、あづえ、よる、假字なりと、あぼえ、
る法なり。例へど、いの假字を、書くべきを、二百五十一として、あ
假字を、書くべきハ、十七なれば、あ^二の、いより、少なきこと、十分の
一より、至らざる、割合なり。然る時ハ、其少なき、あ^二の方の、を、あ
ぼえ、あきて、其他のハ、あぼえ、あづえ、よる、方の、なれば、かなづかひ、い
の假字なりと、推し、を、かり、知る、類の、如し。

かなづかひの、こゝから。

假字づかひを、よめる、バ、清音の假字、濁音の假字、音使の假字、字
音の假字の、四種よ、よから、べし。其うち、字音の假字ハ、其數、少

かうねむ用ふべき節々も、考がく見えて、馴れておぼゆるをよしとすべし。なほ、字音の假字ハ字音かき、さして假字の終るべきハ、ブの教科書を見るべし。

清音の阿行、也行、和行、波行と、濁音の佐行、多行とよそ、次の如し。

清音よそ終るべき假字。但し、○をめぐらしてうるハ、全く終れぬ假字なり。

阿行 ㊦ い う え お

也行 ㊧ や ゆ よ

和行 ㊨ わ む ゑ を

波行 ㊩ を ひ ふ へ ぼ

但し、此うちよそ、阿行、也行、和行ハとも、喉音なれば、其韻、や、む、か、み、て、終れ易けれども、あ、や、わ

ハ互ひよ終るることなく、まゝよも、終るることなし。也行の以、和行の字ハ古より、阿行のいうと、區別を立てざれば、まゝ終るることなし。波行ハ、詞の上よありてハ、終れずして、中と下とよある時、阿行、也行、和行のよ終るることあり。

濁音よそ終るべき假字。但し、○をめぐらしてうるハ、全くまゝ終れぬ假字なり。

佐行 ㊪ じ ず

多行 ㊫ ぢ づ

おぼゆるべき假字

假字の終るべきハ、上よりくる、如くなれぬ其すくなき方即ち

ずらりえ

條、木の枝の、ずらりのびる。かの。此假字、古書に見えず。延喜式のもの、たかなうねむ、今ハ本居翁のずらりえ(末枝)なり。

たるむ

撓、ありりをうけて、下よたる。撓、たるたる、撓む。字鏡(削多和牟) 撓々、たるむとらる。

たるやか

嬋妍、たるくとして、やまらかよみゆるさま。假字ハ次のたるやめ、なをざらふべし。

たるら

俵、米などをりる。とららぐと。此假字、古書よみえず。今ハ高田與清の松屋筆記の、説よする。硫黄、火をりやすもの。ゆのあら

ゆるら

弱、つよくなし。字鏡(縣於毛與和志) 弱よ、ゆるらる。假字をなし。

あらし

泡沫、水のうくれらる。あらしは、白塩あらしのこと。和名抄(白塩阿和之保) あらしゆき、氷雪あらしのうき。古事記(阿和)

あらし

由、みちる。水泡、みのあらしの約り。水ハ、たらしみ(水泳)みちる。列(水上)のうき。

あらし

皴、皮の縮み。皴、皴り。字鏡(酢の和名抄(皴之和) 於毛互志和牟) 鶺鴒、鳥の名。この假字、古書よみえず。されど山家集又此鳥の歌ありて、常よかくかまをうへり。文字も、鶺鴒の字に似たり。

あらし

酒瓮、酒をりる。酒、酒をりる。日本紀(瀨和)

あらし

次のハ、ほかの語と、結びあひらる。語をれた、結びを、とぎて見れば、語義あらされて、其假字も、知ららめれども、語義を知らざら

る時の書くことにも讀むこと今ハひろくの語のやうにも
もりきまぬくことなり。
なりざるが、あわくを、ひらさせり。

浦回 浦のめぐり。浦のほくら。すぐそ 物 志ま

嶋回 嶋のめぐり。

輜 車のをろがその、大ききなる輪。大

轡 輪の、くわち。和名抄(輜、於保和)

轡 馬の口よるゆる、口の輪の

廓 ひくかきへの、とくち。此假字古書よみえず。

く されど、うらむの所よのころ如く、かきみめ

ど くちむらハかをらざる、この假字なるべし。

諺 くこの、きさ。ことくま。

理 靈異記(去砥和左)

か ち。萬葉集(許等和利)

く く く

おほ く く

く く く

聲音 くあね。くあいのあハ、くゆるのとくち、くちよハ、

く く く

く く く

く く く

く く く

く く く

く く く

く く く

く く く

く く く

く く く

く く く

く く く

く く く

く く く

く く く

く く く

く く く

く く く

く く く

く く く

あ

この假字ハ あ あ

あ あ あ

あ あ あ

野分 秋の頃、の大風野を、あき、くくち、くち、和

あ あ あ

あ あ あ

あ あ あ

あ あ あ

あ あ あ

あ あ あ

あ あ あ

あ あ あ

るあり

るや

るる

るる

蛎、虫の名。字鏡
（蛎為毛利）

禮、るやまひひの假字なり。次
（るやまひ）るやまひの例なり。
日本紀（為夜備）

あやまふ、るやまふの假字なり。

率、つれて行くの假字なり。次
ひきつらる、つれてゆくの例なり。

支為天由久

居坐、をるの假字なり。和
いゝゝゝ、をるの例なり。

をる、かひゝゝの例なり。鴨居戸の、かひの例なり。

ろ、古事記、くらゐの例なり。位坐を、くらゐの例なり。

とのゝゝ、くらゐの例なり。宿真殿よゝゝの例なり。

まゝゝゝ、くらゐの例なり。圓居まゝゝかゝゝゝの例なり。

る

（るさゝらひ）

るがらる

みぐひ、いゝゝゝの例なり。田舎井中の

井と井との間にある人、みぐひの例なり。

家、和名抄（田舎井奈加）、みぐひの例なり。

の例の、みぐひの例なり。板井板してかゝゝゝの例なり。

加奈豆奈為、みぐひの例なり。桔槔鐵索の井を

蘭、草の名。和名抄（蘭為）、みぐひの例なり。

膝行、みぐひの例なり。此假字古書にみえず。今ハ、古言梯より、

犂の下よつけて、すりてつゝかゝゝゝの例なり。

同じ。（みぐひ）未底、田をすく道具。犂の下よつゝ

るあり

蛸虫の名。字鏡
(蛸為毛利)

るや

禮うやまひ。假字ハ次
ののやまひの例なり。
(みやび) 禮うやまひ。續
日本紀(為夜備)

みやまふ禮、うやまふ。
假字おをじ。

るる

率つれて行く。假字ハ次
のひまゐるの例なり。
ひまゐる引率ひま
つれてゆ

く。字鏡(獲比)
支為天由久

るろ

居坐をろ。すまろ。和
名抄(般為流) 居坐をろ。
をろをろ。 居坐をろ。

をろとかりの 鴨後戸の かみをろと
をろとのまきみの上。 くるをろと
をろとをろと

ろ。古事記くらゐ。位坐を
くらゐくらゐ。和名抄
(久毛韋) 宿直殿よわ
くらゐ和名抄
(神門鳥居)

まゐる圓居 まゐるかよをる。 車坐ま
をろをろ。神樂歌
(万刀為) くらゐくらゐ。基本
のす

まゐる。假字
おをじ。

まゐる

葵貴きと まゐる行
神樂歌(万為利)

あぢろ

紫陽花草の名。字鏡
(紫陽花安治佐為)

あゐ

藍草の名。和名 からあゐ紅
抄(藍阿為) の藍の くらゐくらゐ
くらゐ紅 くらゐ此の藍の のあを つれ

なるむれ ば剣と なる和名抄
萬葉集(久) 禮奈為

禮奈為

うたゐ

髻髪を うたゐ垂れ うたゐら ぐあ ぶを
髻髪を うたゐひ 和名抄(髻髪字奈為) うたゐ

こ。童男童女うたゐ うたゐあ づあ づあ
あひ あひ 松假字 おを じ。

ひひ のあ ると 志

かゝる

乞兒くひ のを ひと まか らる
ふ人。和名抄(乞兒加多為)

(志ほきるゑ)

海の潮の立ち騒ぐ、と
ころ。萬葉集(潮佐為)

たのゑ

地震大地のくまき
日本紀(那為)

此ほかよ用の字の語尾をゐなりとし、わちるわちる
わちるれと、ならぬかす、説ある。されども其假字のあかし

古書に見えざる。今ハ本居翁の古事記傳よりて、ゐの説を
用ひず。但し古事記傳よりなりとハ其ゐをとらざるよ
されざるなり。なほ用字の事ハ日本辞典よりし。

い

此假字ハ一音の語なり。時ある語の上よある。時ハゐよ
まぎらる。されを二よ、いも如くゐと、かくづき者と、覺えき
て其外のをみないなりと、覺いづ。まゝ中と下とふある時と
ゐと、いとふまざる。されを^いとせ、中と下とふありといと、かく

づき限りといせり。みとかくづきと二よいせり。其外のを
みとひとかくづきと二よいせり。

(おりのけ)

綾冠よつけ
名抄(綾於以加計)
和

さらけ

終くぎらみの道具。木よてつく。
ねる。權和名抄(終櫻散伊都邊)

(のいづみ)

肉ずれ刺和名抄(肉刺乃以須美)

かい

權船の道具。
名抄(權加伊)
和

(かい)

鏡虫の名。
鏡(刺加伊)

ゆほかよ、猶、いとかくづきハ也行の上二段、すなわち、ゆほ
ゆるゆれと、まゝ、くづき、まゝ、ことゝの働きたり。こゝを其
ことをよぶ也行の上二段と、知る時、いと、書くづきハ
自ら知らるづき、ことゝなりなれども、今ハ、ちかみ、其こと

むごもをか次よりいせり。

悔ゆくや

のちのくぬ 悔のたぐひ (後)

報ゆこやく

のちのむくぬ 報のたぐひ (應報)

老ゆこやく

のちのむくぬ 老のたぐひ (老)

う

この假字ハ「うめ、うき、うな」などの如く語の上ニある時ハ「まぎ

る」とことなく「す」居「す」居などの如く、中と下とよある時

ハ「ふ」と「ゆ」と「まぎる」ことあり。す「あ」ると「す」す「ゆ」と「ふ

されむ」と「みえ、中と下とよあり」と「か」く「づき、かぎり

をい「づせり」。ゆ「か」く「づき」ハ五よりいづせり。其ほか

ハ「みえ」と「か」く「づし」と「辨」ふ「づし」。

(せう)

兄鷹ぢひきき鷹をゆふ。但し「こさ、し

の字の音もや和名抄(兄鷹)勢字

此ほか「猶、う」と「か」く「づき」ハ阿行、和行の下二段、すなわち
うえらるる「うれ」うゑらるる「うれ」と「ま」る「ま」る「づき、こさ、し」と
の働きと、音便となり。音便よて「か」と「か」く「づき」ハ音
便の「こ」ら「十二」よりいづせり。其ほか
「く」を「ハ、阿行、和行の下二段」と「ま」知る時「ハ」と「書」
づき「ハ、自ら」知るる「づき、こさ、し」ならども、今ハ「ちや」みよ
其「こ」を「むごも」をか次よりいづせり。

得

うる うれ

飢

うる うれ

植

うる うれ

坐

する うれ

(蹴う)

くろる くられ

五

ゆ

この假字ハ、ゆ夢ゆ雪きなどの如く、語の上ニある時ハ、まぎ若る悔ことなき、あゆ若る悔らゆなどの如く、中と、下とよある時ハ、ふと若うとよ悔まぎ若ら悔くことあり。あふ若る悔とよ悔く若ら悔くことあり。れども、中と、下とよありて、ゆと書くづきハ、也行の上二段、下二段すをもち、ゆ若い悔ゆる若ゆ悔れ若ゆ悔え若ゆる若ゆ悔れ若と若ら悔づき、は、くことむの働きと、音便となれた、まぎ若く悔ことむのハ、其もくらしきを、也行の上二段、下二段とづよ知る時ハ、ゆと書くづきハ、自ら知りらづき若く悔くことむりなれども、なほい若と悔む上の、三と七との、末よ出づせむ、ゆと書けるりの、それな

六

ゑ

この假字ハ、ゑ餌ゑ繪などの如く、一音の、語なる時、あるもゑ験し、ゑ塊に塊ずなどの如く、語の上よある時ハ、え塊よ塊ま塊ぢ塊れ塊ゑ塊と塊く塊ゑ塊ゑ塊とよ塊、ま塊ゑ塊ゑ塊とよ塊、音便として、ゆと書くづきハ、下り。此うちよめても三のハ、くことよ、誤ることあり。ま塊ゑ塊ゑ塊とよ塊、音便として、ゆと書くづきハ、下の十三よりとせり。

ゑ

餌、魚鳥などを飼ふとき、くひりの餌。和名抄(魚見) 餌を飼ふ人、和名抄(屠兒惠刀利) 魚ぶくろ、餌袋餌をやり

ゑ

繪 物の形を書きあらわしむる。ゑあをせ。繪合。繪る。もの。兵音の。繪字の假字。ゑあをせ。繪をたかまけする。ゑかき。画工。繪をよ。ゑごる。緑。繪よ。たをよれ。ゑかき。くかくひと。ゑごる。色をくま。繪馬神社よたて。ゑごる。馬の繪の額。ゑのぐ。繪具。繪をい。るとる。もの。とゑ。靴。繪。靴よか。

ゑ

穢 けがれ、兵音の。ゑご、穢多、けがれおほき、ひと。穢字の假字。ゑごり、のつごりなり。とい。ゑご、穢土、淨土よむあへて。ゑご(糞)く。つり。ゑご、人せをりける佛語。(ゑご)糞く。

ゑご

醜 灰汁の、あぢもひ。和名抄(醜、惠久之)

(ゑごす)

槐 木の名。字鏡(惠、須)

(ゑごぬ)

狗 獸の名。和名抄(狗、惠奴)

ゑごふ

醉 酒の氣よあせり。古事記(惠比)

ゑごし

烏帽子 頭よかぶるもの。異音の、烏字の假字。

ゑむ

咲 古事記(惠美) ゑむぼ 鷹、多む時の。頼の。古事記(惠美) 可咲、多むづし、ゑむさま。保。ゑむぼ(か) 笑ひあぢける。ゑむぼ(か) 歡笑、マラ。

む。續日本紀(惠、都良可) ゑむぼ(か) 歡笑、マラ。

怒 ぐらむ。ぐらみをい。怒。怒の、字音の假字。

蜻蛉 虫の名。和名抄(赤卒、阿加惠無婆)

雕 刀をつきくみて、けを。佛足石歌(惠利) ゑごる。假字おなと。

聲 ひびく。萬葉集(許惠) 口よりいづる。音。ま。物の。

末 物のうら。のの。古事記(須惠) ぐごる。抄(梢、古須惠)

末 古事記(須惠) ぐごる。抄(梢、古須惠)

(すゑ)

假髮 髪の、ちぎりをひよそふる、かみ
のけ。和名抄(假髮、須惠)

すゑ

陶 土焼の、うつも。假字ハ、次
の、すゑのもの例なり。すゑの、陶土焼の
うつも。和
名抄(陶、須
惠毛乃)

ちゑ

智恵 心の、さとり。心の、とら
き。吳音の、慧字の假字。

つゑ

机 書籍などをのける、も。ふづゑ
机、ふみの机
假字おなじ。
和名抄(机、都久惠)

つゑ

杖 足の、たすけ。よつゑ、も。かせづゑ
杖、横首杖、横木
を、つけ、よ
和名抄(杖、都惠)

ゆゑ

故 事の、ゆゑ。その、為、それ、よ
ゆゑ、ゆゑ、あり
ゆゑ、ゆゑ、あり
見ゆ、ゆゑ、見ゆ、
假字おなじ

此はかよ、猶ゑとかくべきハ、和行の下二段、すゑまらうゑ

うる、うれと、むら、く、づゑ、つゑ、こと、むの、働、き、た、り。此ハ、其
こと、むを、だに、和行の下二段と、知る、時ハ、ゑと、書、く、づゑハ、
自ら、知らる、べき、こと、なり、た、れ、ども、今ハ、ち、な、む、よ、其、こと
む、ども、を、も、次、よ、い、せ、り。

飢 腹よ、うひ
りの、な、し。

うゑ 死の、た、ぐ、ひ

植 草木を、お
ほ、し、た、り。

うゑ 植木
の、た、ぐ、ひ。

坐 すがら、す
を、ら、す。

すゑ 柱
礎の、た、ぐ、ひ。

蹴 足よ、て、と、を、
す、け、る。

くゑ 蹴
鞠の、た、ぐ、ひ。

え

この假字ハ一音の、語、なる、時、ある、を、語の、上、よ、ある、時ハ、ゑ
よ、ま、ぎ、ら、ま、ね、を、四、よ、い、つ、る、如、く、ゑと、かく、べき、もの、を、お

げえおきて、其ほかのハ、皆えなりと、おぼゆべし。また、中と
下とよ、ある時に、**ゑと**とよまざる。されど、こゝも、中と
下とよ、ありて、**えと**かくべまかざりをいひせり。とかく
ぶまハ、六
よひせせん。そのほかのハ、みな、
つとかくべしと、まきまふべし。

(あえか)

すえろ

かよるくもの、やそらか、の意。中
古の語にて、かく書きたるらん
委、食ひもの、酸くなる。此假字、日本紀の傍訓よ
食よる。されども、和名抄も、冷酢漿の注み、冷
酢を、比伊須由礼流とよみて、須由礼流を酸く
なれり。意まのれれば、餿いともよ、也行よて、
えるとも、すゆる
とも、いへるなり。

(あこえ)

さくえ

距、雞の、けづめ。和名
抄一距、阿古江
小筒、酒をいりし筒。東鑑に見ゆ。割
れぬの、うりしなるべし。

さくえ

榮螺、貝の名。和名抄
榮螺子、佐左衣

さくえ

棗、盃の、たくい。和名
抄一棗、佐須衣

ぬえ

鷓、鳥の名。和名
抄一鷓、沼江

たえ

鮓、魚の名。字鏡
(鮓、波延)

ひえ

蕪、草の名。和名
抄一蕪、比表
比表
土里
ひえどり、鶺鴒鳥の名。蕪をくふ鳥
なるべし。和名抄一蕪

ふえ

笛、吹き方らふ、りの。
和名抄一笛、布江
のどがえ、呪のど。和名抄一
呪乃無上布衣

次のハ、ほかの語と結びあひたる、語を、結びを、ときて
見れば、語義あらわれて、其假字も、知らるめれども、今ハ、ひ
らんの、語のやうにも、なりたるが、あれ、バ、いひせり。

費ひ。少すくなくなる。

つひえ。くらひのつひえ。
(國費)のたぐひ。

煮にゆ。煮にるもの。

ひえ。ひえゆ(沸湯)のたぐひ。

生なゆ。草木くさくそが。

ええ。ひえをえ(蘆)のたぐひ。

映たゆ。光ひかりりてりあふ。

ええ。ゆあをえ(夕照)のたぐひ。

見みゆ。目めの心こころ。

みえ。みえをえ(見隠)のたぐひ。

燃もゆ。火ひが。

もえ。もえをえ(燃)のたぐひ。

萌もゆ。草木くさくその芽こぼりげ。

もえ。もえをえ(萌黄)のたぐひ。

を

この假字ハををなどの如く、一音の語ある時、或ハをを女をを男などの如く、語の上よある時ハおハ紛れおとともあつあつくく書し。あを外ひえあを青などの如く、中と下とよある時ハ

を

おとほとよ紛まるることあり。あつあつあつともあはとあは。但し、國語こくごの中と下とよおと書かくくづき語をかねねばばひひららの語ごもあららず母を古言ふるごよてハああももりり中と下とよてハ唯ほほよのみ紛まふと思おもふふづづききててららままををと書かくくづき限かぎりを出だせせををおとほほハ例の推おしして知るしづづし。

男おとこ。人のみならず鳥獸草木ちうぶくさくそも通とほなりてりふ。此假字このかたじけなのをををととなるなる例よよよる。

をのを。男おとこ和名抄わななまのりををとと夫おとこつつままととああるる男おとこををととひひとと(男人)のをををととるる。

乎こゝ字ご止と。和名抄わななまのり夫おとこををとと夫おとこ男おとこつつままととああるる男おとこををととひひとと(男人)のをををととるる。

とをを。和名抄わななまのり夫おとこををとと夫おとこ男おとこつつままととああるる男おとこををととひひとと(男人)のをををととるる。

和名抄わななまのり(後夫)宇波うな乎こゝ字ご止と。夫おとこををとと夫おとこ男おとこつつままととああるる男おとこををととひひとと(男人)のをををととるる。

壯士、たけき男。萬葉集(多家乎) あらしを、壯士、あらし(安良志乎)

をやりを、すくみよすくむ。みわびを、風流士、みわび(男。假字、あなまじ。やび、みわ)

男。ますつを、丈夫、なま(男。を、か)

牡鹿、を、とこの鹿。さを、か、あなま

緒、糸、索、紐、の、たぐひ、すくめて、たがく、つ、け、み、を、

水脈、み、ぐ、す、ち、の、長、く、つ、き、を、い、み、を、

く、し、漣、標、み、を、の、ある、よ、ま、て、よ、ほ、ぞ、の、を、

ち、ご、の、臍、は、つ、き、と、も、緒、

芋、糸、よ、う、む、料、の、麻、を、け、桶、麻、を、う、み、て、入、る、器、水、た、ど、ま、入、る、器、麻、節、の、意、和、名、抄、(桶、乎、計)

を、

を

尾、鳥獸の、あり、よ、ひ、け、の、な、を、な、尾、花、尾、の、如、

を、い、よ、萬葉集(乎、波、奈)

岑、山の、峰、萬葉集、よ、峰、字、を、乎、と、よ、め、り、す、ま、山、

の、裾、の、長、く、ひ、き、を、人、う、る、と、く、ろ、を、も、り、

が、す、み、み、ね、も、を、も、も、な、ち、か、く、し、つ、を、

の、岑、上、を、の、う、の、つ、を、

小、ち、ひ、と、ま、き、物、を、ひ、ひ、す、ま、唯、を、ぐ、ら、ま、小、車、ち、

車、を、ぐ、し、小、櫛、ち、ひ、を、す、小、簾、簾、ち、ひ、さ、き、す、い、

唯、く、く、の、聲、次、の、を、を、唯、々、く、く、の、聲、日、を、

女、を、み、を、の、音、便、假、字、を、を、う、な、ご、女、を、う、な、よ、

なをみな女古事記 をんな 女をみな をん なご 女
(袁美那) の音便。

うなよ をんかあめ 妻妻のごくくする女。
あなご 和名抄(妾乎無奈女)

岡 陸低き山の平かあるいこころ。海
をん 和名抄(兵乎加)

可笑 阿奈乎加之 ○此をかしをかし(可)と
別ちなく用ある人あり。されどもあかしの笑ひ

つづきといひひくつよすづからず。されば今ハ
本居翁の説よりておをの假字を只かきり。

犯 あひてす。此假字古書よみえ。

茵菜 木の名。ひくつの躑躅。和
名抄茵菜乎加豆々之

拜 禮とす。假字ハ次の(を)がむ 拜禮をす。日本
紀(高呂鏡弥)

萩 草の名。和名
抄萩乎木

をがむ

をがむ

をか

をかし

をかす

をかす

をかむ

をかむ

をく

をく

をく

をく

をく

をく

をく

をく

招 まねく。よぶ古
事記(遠岐)

童男 男の。つらも。日
本紀(鳥貝奈)

木 草の名。和名抄
(木乎介良)

愚戯 あつか。たごれ。 をんがましん をん
古事記(袁許) 見ゆ。

がる をん をん をん をん
思ふ。 見ゆ。

鱧 魚の名。和名抄
(鱧魚乎古之)

怠愈 いゆ。病のゆ。此假字古書よみ
え乎。今ハ字鏡集の古訓よよる。

驕奢 たかぶる。たかぶる。此假字
古書よみえ乎。今ハ本居翁のをんといふ

語り、うつれるをり
と、りくるよよる。

長 かみよたり人。 をん をん をん をん
萬葉集(乎佐) 里長 むら 色

邑のふたなるをさ、船長、船のをさ。

をさ

箴、機、の道具和名抄(箴、平佐)

(をさ)

譯語、外國の語を、が國語に移し、が國語を、外國の語に移す人。日本紀の古訓より。

をさ

魚の串よさ(魚、平佐之)

をさ

幼稚、いさぎなし。わかし。日本をさ(たの)なま兒。紀、不賢の古訓より。

をさ

治納、静ます。物を、入る。づき所。をさ(ま)る。治納、假字、同。

をさ

餘りよさ、多くハのこる。萬葉集(平佐平佐)か(さ)し。わかをかし。日本紀、軌制の古訓より。

をさ

本紀、軌制の古訓より。

をさ

鴛鴦、鳥の名。和名抄(鴛鴦、平之)

をさ

愛惜、すてが(さ)。古事記(平志)

をさ

韋、(韋、平之)皮和名抄(韋、平之)波

をさ

折敷、かまらけなをのひするもの。折り敷きのつぎ。

をさ

教、物のあま(す)す。日本紀、竟宴歌(袁志弊)を(さ)す。弟子、己がを(さ)す人。

(をさ)

食、(袁須)を(さ)す。食物、假字(あを)し。

をさ

獺、獸の名。和名抄(獺、平曾)

(をさ)

虚言、偽り。萬葉集(平曾)

をさ

雄詰、日本紀(鳥多鷄廬)

をさ

遠、(遠)し。日本紀(鳥智)を(さ)す。遠方と。ほき方。を(さ)す。遠近、あを(さ)す。

をさ

伯父、叔父、父の兄弟。和名抄(伯父、平知)

をさ

(をさ) 伯父、父の兄。字鏡(阿伯父平)

(地) おとをぢ (叔父父の弟。字鏡 (阿叔弟乎地) おほをぢ (從祖父父のを)

をぢ

老翁 年あいにうる男の尊称。日本紀(老翁鳥賦)

(をぢたし)

懦弱 つたな (乎遅奈伎) 佛

(をり)

をちかへる (をちて、めく) 万葉集(乎知) 假字同じ。

(をり)

現在 うつ。万葉集(乎都々)

をりつひ

一昨日 昨日の昨日。万葉集(乎登都日) をとをし、一昨年、昨年の昨年。

をしめ

少女 若きむらめ。古事記(遠登賣)

をしり

媒鳥 鳥をとる時、かたがちまづか 万葉集(乎度利)

をしる

踊 かがあがる。乎止留

をの

斧 木をきる刀。和名抄(斧乎能) てをの 斬。木をけぐる。斧。和名抄(斬天乎乃)

をのく

戦慄 あそれあそふ。字鏡(惜乎乃々久)

をし

伯母叔母 父の姉。父の妹。和名抄(伯母乎波)

をしる

終 いくとみなる。萬葉集(乎波里)

をし

甥 兄弟の子。和名抄(甥乎比)

をみかへし

女郎花 草の名。和名抄(女郎花。乎美那閉之)

をしめ

叫 叫ぶ。今の語。うらむ。今の語。うらむ。今の語。うらむ。今の語。うらむ。

をしり

時節 とき。その時。日本紀。節字の古訓。よる。

をしり

檻 猛獸をくわおく。もの。詩大雅。牢字の古訓。よる。

をしる

居 せとよある。す。万葉集(乎流)

まのます まのます

申、貴き人よ告ぐ。古事記(麻表須)此假字音

あをら

徐々、あをら。此假字古書に見え

あををき

俳優、あををき。猿樂のたぐひ。

あを

青、藍の色。古、あをを。鏡(艶艶阿乎美)字、あをかひ。

螺、貝の意。あをかひ。青、蝦蟇、阿乎加閉流、あをの

り、抄(陟、蓋、阿乎乃利)和名、あををひとくき。蒼生、日本、紀(蒼生、阿

鳥此等、あををむ。抄、蝦蟇、虫の名、和名、久佐)あををむ。

襖子、女の名、假字、ハ次、の、あをを。抄、襖子、和名抄、あををの例、よる。

功勲、あをを。日本紀、竟、宴、歌(夷、装、鳥)

いさをし、夏、いさをし。日本紀、竟、宴、歌(伊、佐、表、志、久)

いさを

魚、水よすめ、鱗と鱧とある。いさを、とびを。鯨魚

ひを、氷魚、魚の名、氷り、ひを、の、ひを、

名、堅、うを、の、ひを、ひを、の、ひを、

の、引、を、省、ける、なり、す、て、引、も、省、く、と、あり、

め、と、い、ふ、な、ひ、の、如、く、ひ、を、

和名抄(鮭、之、呂、乎)を、ひ、を、

か、う、ぬ、魚、目、の、こ、を、

和名抄(眺、目、以、乎、女)

竿、長き竹、和名、からがさを、連柳、稻、を、う、り、道、具、唐、抄(攜、佐、乎)

柳、加、良、み、ざ、を、水、竿、船、を、つ、か、ひ、竿、

十、数の名、古、事記(登、表)

とを

むせを 芭蕉草の名。芭蕉の字音なり。こを

みまを 操志を、守るをいふ。靈異記(彌佐乎)

○濁音の假字

じの假字ハ上中下のりつゝあななくりつゝよてもぢま

ぎんまされむとくよまじと書くづきかぢりをいふせり。ほ此

ト 不ちけしの未來の語。

ト 疾病の名。痔の字音の假字。

あトか 簀土をいれて、はちふの和名抄萬阿自賀

あトち 網代竹のつぎをとを、くみつらねの約

あまろく 肉り。萬葉集(阿自)の類。あまろく志し(餘肉)

かどく 憔悴やせほろろる。日本紀

かどる 咒詛のりふ。日本紀(咒詛、伽辞離)

かたけかし 辱身のほろと、すきくもをさかした

くらか 麋獸の名。和名抄(麋、久之加)

くろく 折なる。まがす字鏡(融、久自久)

くろる 扶突きくみて、おが。字鏡(銅、久自利惠留)

さしき

假殿 物見などの時すけるわらうよ、かまふさ
るもの。次のさしき、のうらむるなり。さ
ずき、假殿、さしきと同じ。
古事記一佐受岐

志しき

蜺 貝の名。和名抄(蜺
貝之々美加比)
縮 短くなりて、ひくひらよする。假
字ハ、次の志しき、まるの例なり。志しき、縮
よおをじ。字鏡 志しき、縮志自万留
縮志自万留 志しき、縮志自万留
名抄(緘之々良岐)

志しき

辟易 たいふひ動く。此假字、古書よ
見えず。今ハ、和訓栞よする。
瘧 ちねわいの、なれて高くなる。
字鏡(詭譎)阿乎弥豆志牟

志しき

詰 ちかめて、閉ふ。
字鏡(詰)奈是留
怒 いきよか、志しき、か
りて。萬葉集(奈麻強)

志しき

踏 ちりつ。すりつがす。
字鏡(踏)不弥志留
薑 草の名。和名抄(薑)
久礼乃波之加美)かみ、兵葉、木の
菜、葉加波
波之加美)

ひしき

彈 持ちみの、あるなまこり
字鏡(招)弓波自之

ひしき

始 新よおらす。續、ちまらる。假字あをし。
日本紀(波自米)

ひしき

鹿尾菜 海苔の名。次のひしき、ひしき、鹿尾菜
の、うらむるなり。ひしき、海菜の

ひしき

名和名抄(鹿尾
菜、比須支毛)

ひしき

聖 すがれてよき人。清み、うら
酒。日本紀(竟宴歌)比志理)

ほしき

脯 乾、うら肉。和
名抄(脯保之々)

まじらふ 禁厭 祈りて病をなほす類の口ぎを(まじらひの厭魅、口ぎをひをあらはるまじらふ)

あしきみちよりの 厭魅、口ぎをひをあらはるまじらふ(まじらひの)

祝詞式(麻自許利) 祝詞式(麻自許利)

まじり 眦 目のあり。目の語のわらひをいふ(まじりハ目の毛まじりハ目蓋まじり)

まじる 交雜 いろいろちがふひとつと(まじりハ交雜マシト)

まじらる 交雜 いろいろちがふひとつと(まじりハ交雜マシト)

まじらる 交雜 いろいろちがふひとつと(まじりハ交雜マシト)

まじらる 交雜 いろいろちがふひとつと(まじりハ交雜マシト)

まじらる 交雜 いろいろちがふひとつと(まじりハ交雜マシト)

まじらる 交雜 いろいろちがふひとつと(まじりハ交雜マシト)

めもじき 菟蔚 草の名。和名抄(菟蔚、米汲之支)

やじり 鏡 鏡の、志利

あろじ 主人、家の人(風俗歌(阿流之))

あろじ 饗 酒肴をよめて、まじらうとをよめて、あろじ(をいふ、まじらふ、假字、主人よあろじ)

いみじ 甚 見えぬ、つねみ、かく書けり(見えず、つねみ、かく書けり)

うじ 蛆 虫の名。古

うじ 項 頭の名。和名抄(項、宇奈之)

おなじ 同 異なるといふことなし。(おなじ) 同おなじと同一。

おなじ 同 異なるといふことなし。(おなじ) 同おなじと同一。

おなじ 同 異なるといふことなし。(おなじ) 同おなじと同一。

おなじ 同 異なるといふことなし。(おなじ) 同おなじと同一。

きじ

匙、ものをすくひとる。此假字、古書に見えず。常、かく書けり。

すまじ

荒涼、さびし。すまじ。そらひをさし。此假字、古書に見えず。常、かく書けり。

つじ

辻、道と道と、いであひさる。此假字、古書に見えず。されども、字鏡に、艶艶を、阿乎弥豆志牟とよみて、高くをるを、豆志牟とつじがみりつれむ。辻も、豆志の假字なるべし。

つじ

辻君、辻よ。つじうら、辻占、辻よてをら、遊女。つじうら、する、占ひ。

つむじ

躑躅、木の名。假字ハ、次の例をり。いさつじ、羊躑躅、一種の躑躅。

つむじ

廻毛、牛馬の毛の、まろく、めづれ。々々の、和名抄(廻毛、都無之)。

とじ

刀自、よるひたかき、女。い、の、こ、と、をとる、女。ま、と、老、女、を、い、ふ、は、め、こ、と、を、和名抄(負度之)。

ほじ (ぬじ)

家刀自、家の刀自。靈異、記(家室、伊戸乃土之)。

自母君、萬葉集(此刀自)。

もじ

虹、そらよちちて、五色の、輪の、く、く、み、ゆ、を、り、和名抄(虹、本之)。

記(波士弓)

ひつじ

羊、獸の名。和名抄(羊、比豆之)。

あじ

富士、駿河國の、山の名。和名抄(淳志)。

むらじ

連、姓の名。萬葉集(武良自)。

もじ

文字、文字の、字音の、假字。

+

ず

この假字に上中下の、ひびく、めなく、りづ、もて、ぶ、ま、か、る、され、ど、く、ま、ハ、ずと書くべきか、か、び、り、を、り、せ、り。此
かの、背、割と書く下
しと、ひ、き、ま、ま、ふ、ず。

不、うちけしの現
在の、こしむ。

從者、とびびる。從者
の、字音の假字。

群集、ゆらがりあつまる。
古事記(宇受須麻里)

鱸、魚の名。古事
記(須受岐)

涼、あつさすくさし。
萬葉集(須受之) すくむ、約涼、あつさを辨
く。假字、あな。

雀、鳥の名。和名
抄(雀須々米)

漫、何となく、あひがから。おぼえず。引
引ると、同語をれば、假字を、おぼえり。

すむら

たむずむ

彷徨、たむやけららぬ。そくを離
れずて、居る。萬葉集(立住)

なむずらふ

隼、隼の名。和名
鏡(隼奈須良不)

ねずみ

鬘、冠の、かざりよき、
抄(鬘祢須美)

うず

數、多きと、少きとをい
ふ語。萬葉集(加受)

かぜ

疵、物につけ、まら、か
け。萬葉集(幾受)

きんぎ

葛、草の名。和名抄(葛穀)
久須加豆良乃美

くず

錫、金を、一種の、金。續日本
紀、白鑽の、古訓よなる。

すむ

鈴、振うて、ならす。か
ね。古事記(須受) すむむし、鈴虫の名。すむ
の、ねらるよなる。

すむ

虫。假字
おなむし。

るがず

箏弮 箭の弦をうくる。とくろ。弓の弦をかゝる。

(るねず)

唐棣花 木の名。萬葉集(波称受)

みづず

蚯蚓 虫の名。和名抄(蚯蚓美々須)

もがず

鴟 鳥の名。和名抄(鴟毛受)

○音便の假字

音便とい其音の他の音より、みらびかれ、あるを響かされたと
して、あらぬ音よ、まきくたきくるをいふ。わくと音便に中昔のころ
如く、呼びたりたりより、起りなるづ。困を、こづ。たぐひ
判く、呼び、執念を、あふねいと呼ぶる。たぐひ多し。
さきさきひ 福の(さいなひ)ときとえ、きをい、かく、子(かろ)と
まきくゆる くをい、と聞く。たぐひをいふ。

音便の假字はいとうとなり。但し、今ひくつ、ゆとりよ、たぐひ
かこの音ハ、きしなれども、音便よてハ、皆いと書ま、もこの音ハ
かくもひふへほまみむりあをなれども、音便よてハ、皆、うと書
く、たぐひの如し。次の例を見て、日ままふづし。

い

き をいと書く。例。

さい をいと書く。例。

さい をいと書く。例。

さ をいと書く。例。

さ をいと書く。例。

さ をいと書く。例。

さ をいと書く。例。

さ をいと書く。例。

さ をいと書く。例。

し をいと書く。例。

あした朝をあい先

くし中をく。

あぐし醜をあぐい。

う

かをうと書
かくづき例。

かぐり冠をかうぶら

くをうと書
くづき例。

かをうと書
かをうと書

さくし冊をかうし

くらら葉をかうらうづ

あぐし醜をかうらう。

あつたし嬰をかうらうい

あつたし私をかうらうい

熱寒速近親疎
長短のたぐひ皆おなをし。

あつたし

あつたし

あつたし

あつたし

あつたし

あつたし

あつたし

わをうと書
くづき例

かをうと書
かをうと書

かをうと書
かをうと書

かをうと書
かをうと書

ひをうと書
くづき例。

あづまびと東をかうらうと

いもびと妹をかうらうと

あつたしと弟をかうらうと

かたびと方をかうらうと

あつたしと田舎をかうらうと

あつたし

あつたし

あつたし

あつたし

あつたし

あつたし

あつたし

あつたし

あつたし

ふをかと書くづき例。

ほふし法師をほうし

へをかと書くづき例。

まへつまふ脚をまうらむぎみ

ほをかと書くづき例。

なほし直をなうらし

まをかと書くづき例。

たままをうら賜をたらむらり

みをかと書くづき例。

かみがき髪をからがい

はまらうふ候をまうらむ

つかへまうらる仕をつかへまうらる

なほし直をなうらし

こみち小路をこらむ

かみつけ野からつけ

てみづ水をてらうが

かみべ戸神をからぶ

むをかと書くづき例。

かみをぎ巫をからなぎ

たむけ手向をたらげ

かむし子紺をからじ

りをかと書くづき例。

とりで取をとらうぞ

まあで出をまうらぞ

ををかと書くづき例。

まをす申をまうす

○長聲の音便

長聲の音便とは音を長くひきて呼ぶためよりてくる響をいふさて、其響の假字よりいとうとを用ふたるとバ、詩歌ハ志かなるを其志を長くひきて呼ぶ又志のかまゐかまひかの如く響くも志のかと書き（家司をけり）と書くたゞひ 八日ハやかなるを其やを長くひきて呼ぶ又やうかやあかやをかの如く響くもえやうかと書く（なほさくらん）（佐官）をさくらん、たふ賜をたうぶ、おく（設）をまぐ、よきり（夜）をよきり、ほご（反故）をほご）と書くたゞひ まゝこの長聲よすゆといふをも用あることあり。六日ハむかなるをむゆかと呼

ひて今ハむゆかをむゆかゆといふ、聲をなするも音便なり。

かちろつかひ教科書終

加多一知也教和言

明治十九年三月三日版權免許
明治十九年四月十二日出版
明治廿四年一月二日再版

定價金拾貳錢

著者 物集高見

東京本郷區弓町二丁目八番地

發行所 兼
所有者

長谷部仲彦

京橋區築地二丁目九番地

版權所有

印刷元 發行所

弦卷商店

京橋區南傳馬町二丁目三番地

社会科